

農事組合法人 京丹波ほたるの里 理事

谷山 正さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「農産物を生産して販売するだけでなく、地元でとれた物の加工にも力を入れている。京丹波ほたるの里の組合員家族の女性部組織『夢ほたる』の加工部で、女性ならではの視点で地元産の良さを引き出した商品開発をしてもいい、売れるモノづくりを目指し日々取り組んでいる」と話すのは、船井郡京丹波町安井地区の農事組合法人・京丹波ほたるの里で理事を務める谷山正さん(73)。

同地区は、京都府の中央部にある中山間地で、京都縦貫自動車道PA(パーキングエリア)の道の駅「京丹波味夢の里」にほど近い場所にある。同地区は以前、農家一戸当たりの経営面積が約50アと小さく、高齢化や後継者不足が課題となっていた。JA京都や行政の支援で検討を進め、2007年に28戸で法人を設立し、11年目を迎える現在は、34戸が組合員となっている。設立当初から法人を支える

6次化へ女性を支援



▲道の駅で販売する弁当を完成させ喜ぶ女性メンバー(左から林さん、村上さん、安井さん、谷山千栄子さん、村山さん)

谷山さんは、実務的な部分を担い、水稻や黒大豆、小豆などの栽培や農作業受託、都市住民によるボランティアの受け入れや、農業体験を通じた交流活動にも励んでいる。

また、近くに道の駅が出来たことが刺

激になり、道の駅で販売できる商品を作るべく、16年10月に加工施設「キッチンほたる」が完成。「夢ほたる」のメンバーのうち5人で加工グループをつくり、黒豆みそや、地元の食材を使った弁当、ケーキなど、素材や手作りにこだわった商品が人気を集めている。

「夢ほたる」のメンバーである林まさ子さん、村上美智子さん、安井敦子さん、谷山千栄子さん、村山眞弓さんの5人がアイディアを出し合いながら新たな商品を開発する。谷山さんは「毎日、朝

早くから弁当や菓子作りに励み、活躍してくれるおかげで地域が守れている。女性のパワーはすごい」と女性たちの活躍に感謝する。

さらに、今年からは社会貢献として、在宅高齢者が要望する食の注文に応えるべく、加工グループで弁当を作り提供する準備を進めている。

「法人はもうけるのが目的ではなく、高齢化した地域を守るために設立した。法人化をする際に掲げたスローガン『美しいふるさとをみんなの力で守って行く』に沿って、地域の人が元気になれるような取り組みを続けていきたい。今後加工部に力を入れ、ヒット商品を生み出したい」と、谷山さんは今後の更なる女性部の活躍を支えていくと語った。

■法人所在地 京丹波町安井観音寺300(キッチンほたる)。(電) 0771(82)0792(谷山建夫代表理事宅)。

■法人概要 2007年設立。役員5人、監事2人、組合員34人。経営面積11.5畝(コシヒカリ5.6畝、キヌヒカリ0.5畝、もち米0.4畝、酒造好適米「京の輝き」1.1畝、飼料用米1.1畝、黒大豆1.1畝、小豆0.5畝)。農業機械 トラクター3台、コンバイン・田植え機各1台、米乾燥調整機一式(米乾燥機6台、もみすり機・色彩選別機各1台)、黒豆乾燥機・シイタケ乾燥機各1台。加工施設「キッチンほたる」。